

会議開催記録

会議名	第2回 森町総合計画審議会
日 時	平成28年8月24日（水）13：30～
場 所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員19名、事務局5名 欠席委員2名（秋山委員、打田委員）
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) まちづくり検討会の状況について (2) 基本構想（案）について (3) その他（町長と語る会の開催について） 5 閉会
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>町 長： 本日はお忙しい所、また暑い中、審議会に参集いただき感謝いたします。8月も下旬に入りましたが、暑さはまだまだ衰えを知らずですが、森町では初夏のとうもろこしの出荷から始まって、究極のコシヒカリも今年の収穫が出来たとの報告をいただき、次のレタスに取りかかっているという、季節の変わり目と共に産物の豊かさを感じています。</p> <p>9月1日から、ふるさと納税のリニューアルを図り、町外のお知り合いの方にご周知いただけたらと思います。今夏、森町讃歌を2月に制定し、時報の折にチャイムとして流しています。私も何回かPRにも参加しています。立派なCDがありまして、無料配布していますので、是非お持ち帰りいただきたいと思います。</p> <p>現在、総合計画の策定について全庁で取り組んでいる所です。各種委員会、検討会等を数回開催する中で、皆様から様々なご意見をいただき、それらをどう整理し計画に反映させていくかといったことを進めています。まちづくり検討会の状況を報告させていただいて、その後に基本構想・基本計画の骨子部分について委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。8月から9月にかけて、町長と語る会も開催いたします。これについても最後に説明させていただきます。</p> <p>この審議会は総合計画策定のための町長の諮問機関として位置づけられ、基本構想および基本計画の策定にあたり、調整、審議していただく役割です。委員それぞれの立場から、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>会 長： 大変暑い中、公私共にお忙しい中、参集いただき感謝いたします。町長からお話のとおり、この審議会は非常に大切な役割を持っています。向こう10年にわたっての取り組み、町民一体での実施等々、慎重に審議され、すばらしい総合計画になっていくようお願いいたします。</p> <p>4 議事</p>

・ 前回審議会の質疑応答について（資料確認のみ）

（１）まちづくり検討会の状況について

・ 資料１について事務局より説明

（質疑）

委員： まちづくりの見方が重要になってくると思います。町人口の社会減少についてですが、例えば静岡市、浜松市では、20～40歳の女性の社会減少が大きくなっています。まちづくりの視点の１つは、女性が「まちに居たい」と思えることだと思います。各種の制度より、暮らし向きの良し悪しとか、魅力というものが大事で、その魅力を森町なりにどう出していくのか、そのために若い女性を中心に森町を選んでもらって来てもらう、そういう目線がまちづくり検討会をやる上では、ポイントになってくるだろうと思います。

２つ目のポイントはコンパクトシティ。歩いて行ける範囲に、色々ある程度ของことが済ませる事が出来るということ、その２点が確実に入ってくると思います。「まちづくり検討会」開催にあたって、そういう説明があったかどうか、メンバーの皆さんに材料や資料が提供されたのか、その上で検討されたのかどうか少し疑問です。

事務局： 検討会員は15名で、総合戦略、総合計画策定の際に、住民の皆さんにいろいろな意見募集を行い、そこで意見を出されてきた方、これまで協働のまちづくりに関わっている方々で構成されています。昨年策定の人口ビジョンの概要については説明しています。

あまり行政主導になり過ぎないように、メンバーの主体性（及びコンサルタントによる進行支援）により運営しているという状況です。住民の方の主体性を尊重するという姿勢です。

委員： まちづくり検討会と、総合戦略、総合計画との関係ですが、まちづくり検討会に「何を期待しているのか」ということは町で持っているべきもので、人口減少社会に対する挑戦するという、その部分は言わなくてはいけないと思います。その大前提で、定住人口・移住定住の回復についてどうするのか、行政が投げかけるようなスタンスが必要ではないかと思いました。

会長： 最終提案には、そういう部分も出てくると思います。そこを受けた報告もあろうかと思っています。

委員： 類似する意見はもっと集約した方がいいのと、意見の分類がやや違うのではないかとと思われるものがあります。空欄もあつたりしますがそこはいいのでしょうか。あとメンバーの居住歴などを確認したいと思いました。

事務局： 居住歴については全員を把握していませんが、旧村の6地区からそれぞれ1名以上は選出されています。

委員： メンバーの属性を踏まえて、「意見出し」の働きかけなどをコンサルタントにしてもらえ

ば、よりの確な意見が出るのではないかと感じました。

委員： この15名のメンバーが策定計画の中身を出されるという事でしょうか。主には人口減少、少子高齢社会への対応が課題だと思いますが、メンバーは若い方や女性が多く見受けれます。扱うテーマとして、また森町の将来を託すという意味では少々不安を感じます。若い人達が危機感・目的意識を共有して将来の森町のことを考えてくれたら良いのですが。行政の方針に対して、町民が意見を言い合うのかと思ったので。

事務局： 若い世代の女性が減少しているという現状も踏まえて、メンバーの女性割合を半分以上にしています。単に「女性だから」選んでいるのではなく、以前の「意見募集」の際に種々ご意見を書いてくださった方々です。「検討テーマ」について、総合計画の枠組みのこと、人口減少社会の認識等々についてはメンバー間でも共有されています。まちづくり検討会への期待（役割）、人口減少をなんとかしなければいけない、ということは共通認識です。総合計画の内容としては、種々ご意見を踏まえて、庁内で「策定委員会」を設置し、そこで案を練っていきます。

今後の町を背負っていかれる、20～40代くらいの方々の意見をもとに、具体的な意見・提案をいただき、結果は行政が受け取るので、粗削りでいいので、思っていることを出してもらおう（フリーディスカッション）のと、5回の予定ですが、メンバーの要望もあって延長の可能性もあります。

今話題の20～40歳代の方々の意見は少し尊重させていただき、現検討会のメンバーが構成されました。居住歴としては、ずっと住んでいる方、外から入ってきた方、双方あって、外から森町を見た意見、ずっと居られる方の意見は両極端なものもあります。町の若手女性職員も「町民」の立場で、忌憚のない意見を出してもらっています。これらの斬新な意見・提案を受け、行政としてどこまで対応できるのかは今後の検討になりますが、今までの守備範囲というのは変えていくべき時期なのかなと思っています。

委員： 今ご説明の内容が先にあれば良かったのですが、趣旨は理解できました。町づくりには4つの視点が大事で、鳥の目（俯瞰する）、魚の目（グローバルな視点）、虫の目（実際の生活者からのアイデア）、こうもりの目（逆さまの目、新しい事が若い人から生まれるかもしれない、町民から生まれることもあるかもしれない）で、そういった視点で皆さんやられていると、私達もそういった視点で見ていきたいと思います。

委員： 構成員と進め方について異論はありません。

（2）基本構想（案）について

- ・資料2について事務局より説明

（審議）

委員： 内容はよく分かりましたが、1つ疑問があります。「総合計画書」というものを県内外の市町について見てみたのですが、正直大体同じ内容だと感じました。ただ、「吉田町」の計画

は、喫緊の課題である津波への備え、「津波防災のまちづくり」を第一に挙げていたことが目に付きました。さて、当森町の重点項目とはどんなものだと考えていますか。

事務局： 「総合計画」の役割として、施策・事業内容を全般的にやることがまず必要になります。現第8次計画に対し、新たに必要な項目を考え、それをまず反映させていきます。これまでの検討からは、「安心・安全」や「活力・情報発信」といった項目を新しく加えていく想定で、その辺を強く進めていく事が重要だと考えています。

委員： 柱は6つになっていますが、内容は第8次とあまり変わってなさそうな気がします。この後から少し違った施策がくっついてくるところで、少しは違ってくるのかどうか、文章が似ているような感じがしますが。

事務局： 現段階での案ですので、今後、まちづくり検討会の提案、町長と語る会などもまだあります。それらを反映させて、変えていくことになると思います。このまま通すということではありません。

会長： 町ではとりあえずこういうことをやらなくてはいけないという事が書かれています。

委員： 静岡県の基本構想を例にすれば、基本の柱は一本一本バラバラに見えつつ、有機的に連携しているものと捉えます。第一の柱は「安心安全」ですが、森町の場合はどうなるのか分かりませんが、県と同じような背景ではないでしょう。その次は、「地方創生」でも言われている、稼ぐ力。情報発信と魅力を再発見して稼ぐ力をさらに強化していく。それによって人を育成して、その人がまた新しい魅力を作ることが出来て、まちづくりが進められていく、その魅力的なまちづくりと共に自然との共生がなされて、それがさらに好循環を生んで人を呼び込む、そのような「ストーリー」があります。森町では、今回、稼ぐ力と魅力を高めることが大きな柱になると思います。そこで「ひとづくり」という余裕へつながり、「まちづくり」にもそれが入ってくる、という好循環を生み出すようなイメージで基本構想を説明していただくといいのかなと思います。言葉遣いとして、産業振興＝稼ぐ力とするかは別の議論ですが。

会長： 今の言葉を頭の隅に置いて、今後皆さんで考えていただければと思います。

事務局： 説明の仕方1つで印象は変わってきますので、今後「冊子化」する過程で詰めていきたいと思います。

委員： 総合計画として「観光」については何か考えがあるのでしょうか。森町に資源はいろいろあると思いますが。庁内に「観光係」というのはあったのでしょうか。

会長： 産業課内に商工観光係があります。

委員： 今後、町として観光に注力していくことが出来るのでしょうか。お茶、とうもろこし、こしひかり、梨、柿、レタス等々食べるもので沢山PR出来ます。菖蒲、アジサイ、花もあります。いろんな形の産業力はあると思いますが、PRができていません。何故力を入れないのでしょうか。先ずは「宿」がないのですぐに造るべきです。沸かしでもいいから温泉もつくって、観光をPRする。それで仕事生まれ、お金を落としてもらい、そして潤う、そういうテーマで議論して計画に入れ込んでいければいいと思います。

会長： 意見として留めていただきたいと思います。

(3) その他（町長と語る会の開催について）

・資料について事務局より説明

会長： 最後に全体を通して、ご意見、確認等あればお願いします。

委員： 森町は、「田舎」でありながら非常に便利な所だと思います。家族人数も東京と比べて多いはず。特に「お茶」をやっていると、大家族なので急須でお茶を飲んでいます。ある程度の家族で住むような家には、何か行政として奨励するとか、高齢社会に対応するべく、もっと「住みやすく」するべきです。健康長寿、良さを生かして、そこに住まう方策として、三世代居住、移転しない人に補助するとか、残っていただくための方策はまだまだあると思います。個人的には高齢になっても施設などに行かずに、家族と過ごせる方が一番いいと思います。

優秀な人なら、すぐ町外へ出ていってしまいますが、出ていかなかった場合の支援とか、「田舎だから出来ること」が大事だと思います。

委員： 私は森林組合を代表していますが、森町の面積の7割は森林です。山間地域は過疎化に悩んでいます。森林の維持管理は町の責任。持続成長産業化のための取り組みをしています。山に皆さんも目を向けていただきたいと思います。

委員： （全国）保健委員会が岩手で開催されたのですが、その席で、袋井市民の方から「森町はお達者度1位なのね」と言われましたが、背景としてどのようなことがあるのでしょうか。

会長： 別途資料がありますので、そこは個別に確認してください。

委員： 基本構想に、「情報発信の重要性」とありますが、私もとても大事だと思います。7月21日、森町の子供達（10人）が北海道の森町へ行きました。その際、小中学生に宿題（森町の良さ）を出しました。北海道へ行ったら、「静岡の森町はどんな所か」聞かれます。その時にどう答えるのか考えておいて下さいと。「遠州の小京都」と言ってもわかりにくい、森町の「日本一」たるは何だろうかなど考えてみてはどうか、それを北海道の森町に紹介したらどうかと助言しました。森町の森町たる所以を共有し大事にしたいと思います。まだまだ発信されていないものが多いと思います。

会 長： これも大事なことなので、事務局は留めておいてください。

委 員： 消防団をやっていると思うのですが、最近地域への愛着が薄れている気がします。若い団員から「消防団に入って、自分たちに何かメリットがあるのか」と聞かれ、大変ショックを受けました。自分達の町は自分達で守って安心して暮らしたいと言うのが大元にあると思いますが、趣味等が優先され、未婚の人もいて、考え方も昔とは違ってきています。新しい人たちに沿ったニーズに対応していかないと、人口減少も収まらないのではと思います。消防団も方向転換しているところです。今後も消防団活動について皆様のご理解とご協力をお願いします。

会 長： 貴重な意見をありがとうございました。

委 員： 今後の森町にとって必要なことは財政力を高めることだという意見がありました。その通りだと思います。それに加えてお願いしたいのは、町の普通財産の売却、遊休地の活用など土地所有者との協議をし、連携しながら人口を増やすようにしていただきたいと思います。

会 長： それでは、予定時間となったようですので、今回はこのあたりで審議を閉じたいと思います。長時間にわたりご意見をいただきありがとうございました。

事務局： 貴重なご意見ありがとうございました。注力する部分の表現、観光PR、森林の活用、家族というキーワードが出たかと思っています。県内では最も家族構成（人数）が多い、森町では子どもが2、3人は生まれる家庭が多くあります。「大家族」という大きな視点があると思います。近隣の市町とは違った視点かと思っています。お達者度については、それほど詳しい資料がありませんが、地域の方々との繋がりが高いことが大きな要員になっていると思います。健康寿命も長い。情報発信というキーワードがありました。1つの柱に限らないキーワードかなと認識しています。消防団の件も家族が出来れば自然と自分達の町は自分達で守ると思えることなのではと思います。「家族」というのが森町の1つの特長かなと感じました。気付いているようで気付いていないことのご指摘を頂きありがとうございました。今後も皆様のお力を借りながら、策定に向けて進んで行きたいと思います。今後ともご協力お願いいたします。以上で閉会とさせていただきます。

5 閉会

以上